

エンケラドスの水中都市

小学二年 宮川 意始

20XX年、日本のたんさき、「あかとんぼ」が、エンケラドスにちやくりくし、サンプルをもちかえた。しらべたけつか、89%のかくりつで、水があることが分かった。それからJAXA・NASAは、「土星の月、エンケラドスに町をつくらう!」というプロジェクトを立ち上げた。あつと言う間にプロジェクトは大人気となり、5人の宇宙飛行士がエンケラドスへ行くことになった。なんしゆるいかのやさいは、せん内でさいばいすることになっている。問だいはロケットにのせる時のおもさだ。組み立て終えた宇宙せんを一つのロケットにのせると、ロケットがつぶれてしまう。なので、一つずつの大きな部品を国ごとにつくり、宇宙でドッキングする予定だ。打ち上げ当日。種子島宇宙センターには、たくさんの人がおとずれた。今回エンケラドスに向かうのは、日本人2人、アメリカ人が2人、ロシア人1人です。打ち上げるロケットは、日本「H3」ロケット、アメリカ「ファルコン9」ロケット、ロシア「ソユーズ」ロケットだ。間もなく打ち上がる。10分後、打ち上げは、みごと成功した。2時間後、ドッキングが完了した。一しゅうかん後、スイングバイを完了させ、5年後にはエンケラドスにちやくりくした。氷の地ひょうに穴を開けます。中をのぞくと、あれ?魚のようなかげがたくさん見えます。しかし、暗くてよく見えません。日本の宇宙飛行士が叫びました。「ライトプリーズ!」ライトが見つかった後、別の穴を開け、そこからライトを照らします。早速見てみると、イワシのむれが見えます。まちがいなくしんしゅです。「ウチュウイワシ」という名前で、さっきのかげは、このイワシたちだったのです。30分後、アメリカの宇宙飛行士が何かを はっ見たようです。地球でしらべると、「ダイヤモンドポルカ」という淡水エイの一しゅとのこと。なんと エンケラドスには、淡水にすらす生ぶつと、海水にすらす生ぶつが、一しよにすんでいることが分かった。

次は、水都市のけんせつだ。さっそくとりかかろうと思った時、地球からつうしんが来た。「今のエンケラドスのいちだと、ざいりようとどけるのがたいへんなため、月のしゅう回きどうに近づける」というのだ。このさくせんは、さっそく

かい始された。まずは、つつむためのふくろを、一しゅうかんかけてふくらませる。その後、エンケラドスをつつみ、地球の近くまでもって来る。よいと思ったところではなし、しゅう回きどうをかえるそうちで、きどうをかえれば完了だ。このけいかくは、5年かけてせいこうした。これから10年後、エンケラドスは、かん光名しよとなった。さて、この文を読んでいるみなさん、水中都市を自由にそうぞうしてみてください。できましたか？今のエンケラドスの人口は、8000万人です。エンケラドスの人口は、これからもふえていきます。